

会議記録

会議名称	令和5年度第3回 杉並区立図書館協議会
日時	令和6年1月27日(土) 午後2時02分～午後3時58分
場所	中央図書館 地下1階 多目的ホール
出席者	委員 鈴木、伊藤、滝田、福田、澤村、杉本、日向、松林、中島、内山、岡村、門間 区側 生涯学習担当部長、中央図書館長、管理係長、企画運営係長、資料相談係長、事業係長、企画運営係主査、柿木図書館長、高円寺図書館長、西荻図書館長、永福図書館長、宮前図書館長、成田図書館長、阿佐谷図書館長、南荻窪図書館長、下井草図書館長、高井戸図書館長、方南図書館長、今川図書館長、中央図書館業務委託責任者
配付資料	・次第 資料1：令和5年度杉並区立図書館運営状況報告書(案) 資料2：杉並区立図書館サービス基本方針に基づく評価項目と取組の例(案) 資料3：令和6年度利用者満足度調査(案) 資料4：杉並区子ども読書活動推進計画(改定案) 資料5：改定案一覧表
会議次第	1 開会 2 生涯学習担当部長挨拶 3 議題 (1)令和5年度杉並区立図書館サービス評価について (2)令和6年度杉並区立図書館サービス評価について (3)杉並区子ども読書活動推進計画について (4)その他 4 閉会

○会長 それでは、令和5年度の第3回図書館協議会を始めていきたいと思えます。

では、まず最初に、本日、図書館協議会におきまして、●●委員が今年度初めてになりますので、一言ご挨拶を頂いてもよろしいでしょうか。よろしくお願ひします。

【自己紹介省略】

○会長 ありがとうございます。

なお、今回、●●委員からご欠席の連絡を頂いております。規則上、本日、委員の半数以上の定足数を満たしておりますので、会議としては成立しておりますので、そのまま進めていきたいと思えます。

次に、議事進行に当たり、毎回のお願ひになりますが、円滑に進行できますよう、各委員のご協力をお願いいたします。できるだけ多くの委員が発言できるようご配慮いただきたいと思えます。

また、本日の資料をお手元にご配付しております。時間の関係上、資料の確認は省略させていただきますが、それぞれの議題の際に資料番号を示しますので、お手元に資料がない場合は事務局までお声がけください。

それでは、ちょっと定刻も過ぎておりますので、議題に入りたいと思えます。本日は、議題が主に3件予定しております。それでは、まず議題(1)令和5年度杉並区立図書館サービス評価について、事務局より説明をお願いいたします。

○企画運営係主査 はい。資料1「杉並区立図書館の運営状況評価の実施について」をご覧ください。

図書館サービス評価については、昨年12月23日に開催した評価部会にて、図書館が行った自己評価について、皆様から第三者評価とご意見を頂きました。なお、委員の皆様から頂いた評価、ご意見は、会長、副会長に、第IV章のとおり、まとめていただいております。後から別にお配りしている第IV章だけの「図書館協議会の評価」につきましては、事前送付しましたものから、修正が入った箇所をお示ししたものです。17ページ、(4)利用者満足度調査結果文言が変だということで修正が入っております。

続きまして、その下、「3 評価項目の評価について」の(2)、「誰もが利用しやすい図書館に」というところの表現が分かりにくいということで「継続的な見直し」というふうに修正しました。またその1行下、「すべての住民や関係者に対し」、これも違う言葉を使っていたんですけども、分かりやすく変更しております。

また、18ページ、(7)「子ども読書活動の推進」の中で、「その中で、これまで図書館

や読書に触れる機会が少なかった保護者層へのPRも重要である。」と、修正をしようと思っております。

また、19ページ、上から2行目、「児童・生徒向けの学習支援や、関連施設」、読みにくいということで点を入れました。

なお、句読点とコンマが混在している部分があるので、一括して修正いたします。この資料1について、本日、協議会としての承認を頂きたいのですが、事前にメールでIV章についての承認の依頼をお送りしておりまして、過半数の方から承認というお返事を頂いていますので、評価部会としてこのIV章については、承認いただけるということでよろしいでしょうか。

○会長 基本的には、後から配ったこちらの修正されたものを、メールで皆様にご確認いただきまして、評価委員の過半数の方からご承認のお返事を頂いていますので、本日の会議では、こちらの資料を原稿としてご承認いただくということで、よろしいでしょうか。

○委員 承認は承認でいいんですが、ちょっと、多少言いたいことがあるんですけど、よろしいですか。

○会長 はい、どうぞ。

○委員 資料費の水準維持が求められているということで、2枚目の3の(1)とかで、水準維持ということだと、恐らく実質的な資料費は減っていくんだと思うんです。書籍代が高騰してきているということがあるので、水準維持ということを考えると、金額としては増やさないと、実質的な水準は維持されていないということになるのかなというふうには思っていますので、これはこれで結構なんですけれども、増額をむしろ求めていくということで取り組んでいただいたほうがいいのかというふうに思っています。細かいところは別途意見を紙で配付しますので――あ、配付のほうって、お願いしたのって、伝わっていますでしょうか。伝言したんですけれども。

○中央図書館長 頂戴はしております。ただ、今回、承認という部分については、今のよう形で話をさせていただいて、それ以外については、まだ修正する時期がありますので、ご意見いただいたものについては私どもの事務局のほうと、それから会長のほうで修正を加えていきたいということで、ちょっと今日は、またご配付してしまうとそこをまた注力してしまいますので、今回は私どものほうで頂いているということでお考えいただければと思っています。

○委員 そうですか。前回配付していただいたというふうに聞いておりまして、この場で

私はずっと意見を言ってしまうてもいけないということで、進行への配慮という趣旨で配付をお願いしたんですが、今からお願いできませんか。

○会長 皆さん、いかがいたしましょうか。基本的には、今日のこの資料はここで承認なんですけど、ちょっと多めなご意見を頂いておりますので、じゃあ、それではいかがでしょうか。

○中央図書館長 じゃあ、後でのご参考ということで、後で見ていただくという形になると思いますけど、それでご配付ということであれば。

○副会長 議論しやすいので。

○会長 そうですね。ちょっとこれ、今言ったように、ご承認の後に頂いた意見なので、ちょっとこの反映ができないんですね。皆さんにメールでご承認いただいた後の意見になりますので、ちょっと後ほど扱いについてはメール等で配付するなどの検討をしたいと思っておりますので、ちょっと今日は、資料としては配付しないということによろしいでしょうか。

○委員 後で参考にとということでそれはそれで結構なんですけど、手続としてはここで承認なんですよ。

○会長 いえ、この原稿については、以前メールでご承認を求めたところでご承認頂いていると理解しています。先ほど、今、整理いたしましたのは1月の初めですかね、私が原稿を作りまして、皆さんにこれ評価委員会を改めて開かないという前提で、評価委員の評価原稿としてはこちらでよろしいですかということをメールでお願いをして、それについて修正の意見がありましたので、こちらの修正を頂いて、この原稿を今日、評価委員会はメールでもうご承認いただきましたというご報告を先ほどさせていただきました。

○委員 分かりました。評価委員会としてはそうで、それをこの協議会として承認するのはこの場なんですかね。

○会長 この資料1全体をこの内容でよろしいですかというご承認を頂くという形になります。

○委員 それはそういう話ですね。

○会長 ただ、ここの部分は評価委員会の意見を基にしているというものなので、この場で、まあ、ほぼ同じメンバーなんですけど、評価委員会ではない組織でこの内容について大きく変更するという場合には、改めて評価委員会を開かなきゃいけないということで、それは以前のところでもうしないという対処になります。

○委員 はい、分かりました。理解しました。

いや、評価については承認で私は結構ですというふうに申し上げているところで、ただ、今日配付されないということで、あれっ、と思ったというだけのことで、どうぞ進めてください。

○会長 はい。ちょっと、それでは、先にも、今のご意見については、この後ちょっとの扱いを、もちろんご意見として頂いていますし、今のご意見については図書館側に、この評価の意見は水準を維持してほしいということなんですけど、私も書きながら、金額ベースで維持してほしいというか、今のその後の新鮮度との関係で、買う本の数とか、あとは内容を維持してほしいという意味で書いておりますので、そういう意味を受け取った上で、ご意見として聞いていただければと思います。

それでは、改めまして。

○委員 ちょっとよろしいですか。

○会長 はい、どうぞ。

○委員 特に私も承認はしていますので、ちょっと意見といいますか、私も初めてこの委員になって勉強という意味で、この16ページの一番最初の全体的な指摘という1のところの2行目に、他区に比べて高い水準のサービスを行っている。杉並として我々区民として他区に行ったときに、いや、杉並の図書館はすごいだぞと自慢していいのかどうか。それは、私の場合には前にもご質問したと思いますけど、いろんな数字について他区の情報というのはあんまり分からないとおっしゃっていたり、東京都とか全国のレベルに比べて、本当に杉並が高い水準なのかどうか。例えばその一例といいますか、杉並で売りというのは何なんでしょうかね。例えば蔵書とか質とか経費とか、いろいろ評価項目というのはあると思うんですけど、その辺をちょっと教えていただければと思って、まあ、ご質問というか意見なんですけど。

○会長 よろしいでしょうか。どちらで、私のほうでお話ししましょうか。それとも、図書館のほうで。

○委員 突然のあれで、申し訳ないですけどね。

○企画運営係長 蔵書数は、今、約200万冊ありますので東京都内で1位か2位くらいというところで……

○委員 1位、2位。それはいいですね。

○企画運営係長 前はずっと1位でしたが、今は、多分、世田谷区等に抜かれているかと思いますが、人口も違いますので、冊数的には高い水準だと思っています。サービス内容

については、全国でもいろいろなサービスがありますので、何とも申し上げられませんが、13館ありますし、トップクラスかどうかというのは、全国の図書館の様子をご存じの方のほうに分かるかと思います。いかがでしょうか。

○会長 はい。私は墨田区も図書館協議会の会長をしていますし、荒川区さんとか、近年ちょっと話題となった図書館とかも見させていただきました。もちろん荒川区の図書館みたいに、1館、中央館ですごくいいものを作って一つあるというんですが、例えば墨田区も一時期、話題にはなったんですが、墨田区は3館しか分館がない。

○委員 3館。

○会長 図書館としてはないんですね。ほかの館がすごく狭いのと比べて、やはり杉並区の各地域にある図書館というのはすごく、それぞれが図書館として一つの、ほかのところに行ったらそれがそのまま中央図書館でいけるくらいのサービスをしているということと、これは私、恐らく住民の方々の特性なのかもしれませんが、住民の方が非常に図書館利用に積極的。特に図書館のイベントとかに対して参加が多かったり、やはりそういう昔から文庫活動とかも盛んな地域ですので、恐らくそういうことを経験した方々が積極的にほかの、先ほど言ったように私の比較しているのは墨田区と新宿区と荒川区ぐらいなんですけど、そういうところに比べて非常に活発かなと思っています。もちろん新しくできた図書館、例えば港区さんとかも非常にタワーマンションの中に入っていたり、そういう建物的な派手さというのはあるんですが、一個一個の図書館の活動としては、私はここに書いているように他区に比してもということが高い水準ということになります。全国的といった場合には、例えば人口比当たりの貸出数とか、そういう比較できる数字というのものもあるんですが、実はこれ、人口が多くなればなるほど、どうしても低くなる傾向にあるんですね。それを、私自身はそういうことを比較する意味はあるかというのはちょっとよく分からないので、全国的に見ても私は非常に予算とか年間に買うお金とかも非常に充実しているなと感じていますので、こう書かせていただきました。

○委員 ありがとうございます。

○会長 あとは、先生、何かありますか。

○副会長 いいえ。

○会長 大丈夫ですか。

○副会長 はい。

○会長 はい。それでは、ちょっとまた議題に戻りますが、資料1の説明を継続していた

だくという形で、あ、質疑でよろしいでしょうか。

○企画運営係主査 はい、そうですね。今、第IV章については承認を頂いたということになりますので、今度は、先ほども会長のほうからお話ししていただきました、この資料1、I章からIV章の全体に対して、図書館協議会の令和4年度図書館運営状況報告書全体の承認をお願いできればと思います。

○会長 こちらは既に皆様にお配りしておりますし、皆様のほうでも見ていただいていると思います。杉並区図書館運営状況の調査についてということで、こちらについてご意見、ご質問等ございますでしょうか。

ちょっと一つ、先ほどちょっと資料を確認していて気がついたところが、9ページ目のグラフですね。ちょっと、グラフを見てください。

グラフ、二つ、個人貸出数と蔵書冊数とあるんですが、一番右側のグラフの数値が、このグラフで言うと、89.9%に、100%に張りついているような、左側の目盛りがずれていますよというご指摘を頂いていますが、これは後ほど修正していただきたいと思っています。下のグラフも、一番上が1,500人なのに、数字としては1,933とか、そういう数字が出ていて、ちょっとグラフの数値としておかしいでしょというのがあります。

○副会長 こっちは大丈夫です。

○会長 こっちは大丈夫ですか。

○副会長 これは、はい、人数で、こっちが冊数なので。

○会長 大丈夫なんですね。

○副会長 はい、これは大丈夫です。

○会長 上の、この……

○副会長 こっちが。こっちだけ違います。

○会長 この数値が違うということをご指摘いただいています。これについて、どうぞ。

○企画運営係主査 ありがとうございます。修正します。

○会長 ほかに、この図書館からの自己評価全体について、皆さんのほうでご意見はございますでしょうか。基本的には、それは評価部会で書いていただいたもので書いてありますので、これについて、今、この中であればという形になります。

はい。大丈夫でしょうか。

(なし)

○会長 それでは、この資料1は今の内容で全体としてこの協議会の中でご承認いただい

たということにさせていただきたいと思います。

その後——はい、どうぞ、事務局。

○企画運営係主査 はい。ありがとうございます。それでは、令和4年度図書館運営状況報告書、ご承認いただいたものをこれから公表に向けて作業を進めていきたいと思えます。この後、こちらは冊子の形と、区や図書館のホームページで公表する流れになりますが、その作業の中で、誤字、脱字であるとか鍵括弧の反対側がないとか、ちょっと文章が分かりにくいとか、そういうようなことがちょこちょこ出てくるかと思えます。そういった簡単な修正、本内容が変わることのないような修正については、事務局と会長、副会長で確認を取りながら修正していきたいと思うのですけれども、そちら一任いただくことはよろしいでしょうか。

○会長 皆様、よろしいでしょうか。

(了承)

○企画運営係主査 ありがとうございます。

○会長 で、大きな瑕疵がもし見つかった場合には、改めてメール等で皆様にお諮りしたいと思えます。

○企画運営係主査 では、そのような形で進めていきたいと思えます。ありがとうございます。

公表は、3月後半ぐらいをめどに作業を進めてまいります。どうぞよろしく願いいたします。ありがとうございます。

○会長 はい。それでは、続きまして、議題(2)令和6年度杉並区図書館サービス評価についての説明をお願いしたいと思えます。

○企画運営係主査 資料2になります。

○企画運営係長 続きまして、企画運営係長からご説明いたします。

来年度の評価、つまり今年度の活動についての評価につきましては、新しいサービス基本方針に書いてある内容を基に行っていくこととなります。今年度の評価項目を変更して評価をしていくということとなりますので、それについての案をお示ししたのが資料2となります。資料2をご覧ください。

基本方針の中にあります三つの視点、こちらは変えておりません。それぞれの視点について描いた将来像と取組の方向性とそれに対応した評価項目の案、それから、その評価のポイント。さらに、各図書館が、どんな取組をしていけばいいか、参考になるような例を

挙げています。この取組の例というのは、今後、各図書館で次年度の計画を立てたりしていくための参考になるものということで考えていますが、10年の間に取組の例のところは変えていきたいと思っています。

まず「『学びの場』としての図書館」では、取組の方向性に合わせて、四つの評価項目を考えております。「多様な資料の収集と提供」、「レファレンスサービスの充実」、「子ども読書活動の推進」、「読書バリアフリーの推進」です。

「知の共同体」では、評価項目を二つ挙げておりまして、一つが「地域との連携」、もう一つが、「杉並の歴史的・文化的資料の収集・提供」です。

三つ目の視点である「『楽しい交流空間』としての図書館」では、「ボランティアとの協働」「利用者同士の交流推進」、そして「読書が楽しめる環境づくり」を評価項目としました。

最後に、これらの取組推進のための基盤整備ということで、「関係機関との協働」「専門家・ボランティアの育成・活用」「利用者ニーズの把握と効果的なPR」を挙げておりますが、「関係機関との協働」については、五つ目の「地域との連携」の中で評価することとします。

それから「専門家・ボランティアの育成・活用」については、図書館の専門性が必要となる「レファレンスサービスの充実」の中での職員の資質向上。それから「ボランティアとの協働」の中で、ボランティアの方たちの活動を支援するための講座や研修などを開催すること、それから、活用ということで活動の場をつくっていくことを評価していくこととしました。

そして、「利用者ニーズの把握と効果的なPR」につきましては、「広報・PR活動」という項目としました。

資料2の一番後ろのページに、旧評価項目が、新しく考えた評価項目のどれに当たるかという対応の表を載せています。太い矢印が、「資料の充実」という項目名を「多様な資料の収集と提供」に変えたということを示しています。④の「講座・講演会・行事の開催」は、一般対象のものと児童対象のものがいろいろ交ざってしまい、児童対象のものが「子ども読書活動の推進」にも出てきていたので、この項目をなくして、それぞれ「子ども読書活動の推進」の中では子ども向けの行事、また「地域との連携」の中では地域と連携した行事というように、分けていくようにしてはどうかと考えています。

また、「人材育成・研修計画」も、どちらかというと全体で行うところでもありますの

で、それぞれの評価項目の中で関わりがあるものについては評価していくということにして、項目をなくしています。その代わりに、「杉並の歴史的・文化的資料の収集・提供」は、今後も保存をしっかりとっていくということと同時に、新しく収集する、また地域図書館が新たにその地域の資料を作成していくことについての評価となります。さらにデジタル化も進めていますので、デジタルでの保存と、公開、図書館に来なくても見られるように、地域資料をデジタル化して保存と提供をしていくということを含めた項目にしています。

以上です。

○会長 はい。ご説明ありがとうございます。

それでは、委員のほうからご意見を頂いてもよろしいでしょうか。

○委員 はい。幾つかございまして、まず評価をしていくというときには、やはり数値目標がないと評価できないんじゃないかというふうに思っておりまして、先ほど昨年度の評価ということというか、令和5年度の評価ということをやりましたけれども、どうしてもこういう活動をやっていますというところから、じゃあ、いいかなという感じで、ふわっと承認という感じになっていきがちなのかなと思ひまして、例えば蔵書数のここをこういうふうに何ポイント上げるとか、あるいはいろんな活動を何回増やすとか、参加者数をこういうふうに増やすとか、そういう数値目標を立てて、その実現のためにはいろんな取組があると思うんですけれども、そういうことをまず設けることで意識が変わって、もっとやらなきゃというふうに動いていって上がっていくものだと思うんですよ。やっぱりちょっと民間と感覚が違うのかなという感じがしたので、今回については、今すぐ入れるといっても何か適当な数字を入れちゃったら、かえって意味がなくなってしまうと思うので、次回に向けてはそういうことも考えていったほうがいいんじゃないかなと。そうじゃないと、ちゃんとした評価ができなくて、実態が分からないままこういうことをやっていきますといっても、役に立たないことになっちゃうおそれもあるので、数値目標は入れたほうがいいんじゃないかというのが一つ。

それから、1の②。具体的な話でいくと、レファレンスサービスの充実ということで、使い方が分からない人が多いんじゃないかと。レファレンス検索はあるんですけれども、それを見ると結構いろいろやっていただいているなというのが分かるんですが、随分深くまで掘っていかないと出てこないですよ、ウェブサイトをね。なので、こんなレファレンスの事例があって、こういうふうに回答したんですというものが、それを見ただけでも結構知的な刺激を受けることはあると思うんですよね。あ、こんなことをしてくれるんだ

ったらこれも聞いてみようかなみたいな、そういうことって出てくると思うので、そういうものが目につくようなウェブサイトの作り方をしたほうがいいんじゃないのかなとか。2の⑤の評価の項目で、講座、講演会をきっかけとして交流が生まれているかとあるんですけども、どんどん次に行きますけど、すみません。これはどうやって評価するんですかというところもありまして、やっぱりこの数値に出てこないし、開催した結果の報告ってないじゃないですか。こういうイベントをやりますよという告知はあって募集はしていても、やってみたら何人集まりましたとか、こういう声が聞かれましたという報告はなくて、盛り上がっているのかが分からないですね、前々から言っていますけれども。それで、じゃあ、こういった評価のポイントというのをつくって、どう評価するんですかと。評価のしようがないですよねということになったら困るわけですよ。なので、参加者数であるとかSNSでこれだけリツイートされていますみたいなことであるとか、何か、やっぱりそういった数値があったほうがいいんじゃないかなという気もしています。

それから、3の⑧利用者同士の交流促進ということなんですけれども、これはやっぱりSNSを使うべきじゃないですかということ、例えば図書館だよりにこう書いてありますというふうに言われたので、年始に本の福袋というのをやっていましたよね。あれはすごく面白いなと思ったんですけども、行ってみて気がついたんですよ。ぱっと告知していないのかなと思ったら、図書館だよりに書いてありました。図書館だよりってウェブサイトのどこにありますかといったら、すごく奥までたどっていかないと出てこない。で、確かに図書館だよりにこれは面白いなということが書いてあったんですけども、これ、目につかないんですよ。目につかなくて、来ない人に知られていないイベントというのは、それはやっていないのと同じなんです。なので、普通にアカウントをつくって、こういうことをやっていますというふうに載せるだけで、面白いなと思う人は出てくるはずで、配付しようと思った資料には写真を載せておいたんですけども、紙袋がざあっと並んでいる絵のビジュアルがあるだけで、えっ、と思う人はいるんですよ。あれ、すごく映えるんですね。で、毎日、一つずつ福袋を紹介していっただけで盛り上がっていくはずなんです。ということがされてもいいんじゃないかと思えますし、SNSはやっぱり活用しなければいけないんじゃないんですかと。

あと、4の⑩。広報活動のところなんですけど、未利用者、非来館者へのPRはやっぱりネット、SNSを使うしかないんじゃないかなと。それも書いたらどうかなというふうになっちゃうと思ったと。

あとは、区役所とか、あと何でしたっけ、区民事務所、そういったところも、そこにも出張所がありますけれども、そういったところにも何か置けないですかね、図書館だよりとか。

というふうに、資料2については思いました。

○企画運営係長 ありがとうございます。まとめてお答えしてよろしいでしょうか。

まず、数値目標については、この基本方針というものが計画ではないために設定していないというところがあります。図書館活動は、目標値、指標を作るのが難しいところがありまして、参加者数が何人になればいいのか、貸出人数が何人まで行ったら目標を達成することになるのかという問題があります。実績の数字による数値目標は立てにくくて、それよりは、図書館が楽しいとか、この行事に参加してよかったみたいなのが指標なのかもしれません。今回のこの評価項目では、1年間どういう活動をしたかということを見るということになりますので、例えば講座、講演会で交流が図られるかという評価項目では、今までは一方的に講師の方がお話しいただくのを聞くという講演会しかやっていなかったけれども、今回、読書会をやってお互いに意見交換をすることによって、新しいグループが生まれたということになると、それは評価できるということになります。

それから、SNSの活用については、今、地域図書館3館で使っています。まだ中央図書館では行ってなくて、この間の本の福袋については、区の公式のX（旧Twitter）に本の福袋の写真も載せて、紹介してもらっています。おっしゃるとおり、ここは大きな課題として取り組んでいきたいですし、今後そういったSNSを活用することをスタートしたら、⑩の広報・PR活動のところで評価が高くなることになります。

レファレンスにつきましても、おっしゃるとおりで、事例をホームページに載せていますが、どこにあるか分かりにくいというところで、新年度にホームページのデザインの更新をする際にもうちょっと目立つように、見やすいように工夫していきたいと思います。そういった新しい取組をした、改善をしたというところを評価していくことを考えております。ということでお答えになったでしょうか。

以上です。

○会長 委員、いかがでしょうか。はい、どうぞ。

○委員 フォロワーが何人増えたとか、そういったところは、それは目標にすると変になっちゃうので、それはそれでいいんですけども、これが、どういう位置づけのものですかということ、正直、そんな、公募の委員には分かりませんからね。こういうものを見

たときに何か数値目標がないのは、逆に、民間の視点からすると違和感がある。なかなか難しいんだということをいろいろおっしゃったんですけども、それに甘えてもいけないと思うんですね。いろいろ工夫したら書けるということもあり得るかもしれないので、そこはいろいろ知恵を絞って検討は進めていただきたいと思います。

○企画運営係長 ありがとうございます。そういう数値目標を立てるということについて、ご意見があれば伺いたいと思います。

○会長 ほかの方、いかがでしょうか。

私、多分追加の意見で出したかと思うんですが、例えば新しく登録した利用者さんの数が増えたか減ったかとか、今言ったように統計は幾つか、以前の評価委員会の中で出てきましたので、そういうものを見ながら出すようにして。ただ、私自身は、例えば貸出冊数の総数とか、人口1人当たり何冊借りていますというのには批判的な立場です。何でも借りりゃいいのかみたいな。どっちかという、何が借りられているのかとか、あと、本質的に測りたいのは、その本を借りた人がどう使ってどのように効果があったのかということ。何を本当は知りたいんだけど、そこは難しいので何とかしましょみたいな話はあるんですが、そういうところを何とかして測りたいとは思いますが、皆さんのほうでこういうこと、今、SNSの例えばツイート数とかインプレッションの数とか、つまり何回ぐらい見られたかというのは一つの指標としてはあると思いますし、私自身は本当に、今、委員のほうから一住民として図書館のほうにはきちんと考えてほしいと。あまりにもその目標がなければ頑張りようもないだろうというご意見だと私は伺っていますので、ぜひそこは検討して、できれば一つとか二つ作ってほしいな、なんて思いますが、あとはもうアンケートとかをちゃんと細かく取って、それを例えば言葉として分析していくとか、自由記述のアンケートもただ単に並べるだけじゃなくてこういう意見がありましたみたいな、そういう文章の分析結果とかを載せるとか、そういうことをすべきかなとは思いますが。質的な評価は非常に難しいんですが、例えば、あと、個別に定期的にインタビューをすることとかいうことで質を測っていくというのはありかな、なんて思っています。

委員の皆さんで、ちょっと本当に難しい点ではありますが、本当に今最後にありましたが、できませんと言うのは簡単なので、ぜひこれは継続的に研究すべきことだと思いますので、杉並区としてはこういう数値がよくなったら図書館の活動がよかったということと言えるような数値は常に考えていくべきだと思いますし、それは説明責任としてあるべきものですので、ぜひそれは考えていただきたいと思いますし、いかがでしょうか。

○企画運営係長 ありがとうございます。区の計画の指標では新規登録者を挙げておりますので、考えてみたいと思います。もちろん、新規登録者が増えて、区民全員が登録しているというのが最終目標かもしれませんが、それよりは増えていく、右肩上がりになっていくということも大事だと思います。いろいろ取組をやった、でも利用が全然増えていないというようなことでは自己満足になってしまいますので、その辺りは考えていきたいと思います。

○会長 あと、今、本当に委員のほうからこうしたほうがいいんじゃないかというアドバイスをたくさん頂いていますので、ぜひそれは、今日後ろにいらっしゃる指定管理の皆さんも含めてぜひ受けとめて、日々のサービスに生かしていただきたいと考えています。

ほかに皆様のほうで。どうぞ、委員。

○委員 ①の多様な資料の収集と提供なんですけれども、この中の評価のポイントの中に多様な資料の収集と出ているので、提供しているだけでいいのかという、活用を、資料の活用ということを考えていただきたいなと思うんです。私が思うのは、文芸関係に関しては皆さんよく借りられていると思うんですけれども、1から8までの参考資料的などころではなかなか借り出されていない。「知の共同体」としての図書館を考えていきますと、1から8までのところの活用を促進するように図書館側が考えていただきたいなと思うんです。とても面白いんですね、あっちのほうって。ですから、その辺を取組の中に入れていただきたいなと思います。一応、蔵書の中で30%弱ぐらいは1から8まで占めていますよね。その棚がなかなか動いていないような気がします。ですから、その辺をこれからちょっと考えていただきたいと思うので、取組の中に、ぜひお願いしたいです。

○企画運営係長 ありがとうございます。先ほど委員がご紹介してくださいました本の福袋ですね。これも使われていない資料が使われるようにということで、今回は、分類番号を本の福袋のところに書いて、どの分類のものが入っているかをわかるようにしたり、宮前図書館では、YAコーナーで謎解きのシートを作りまして、それは指定された分類の棚に行って謎を解いていくもので、ふだん行かないような棚に行くようなことを仕掛けたりしております。学校でもスタンプラリーなどでいろんな分類の本を読んでみようということをしています。大人向けにも、本の展示、テーマ展示等も含めて取り組んでいきたいなと思います。

○会長 はい。本当に本の展示コーナー化、あとはイベントと絡めた展示ということで今まで見れなかった資料に見つかるとか、特に高校生向けのイベントをすると、あ、こんな

本があったんだみたいな発見があったり、意外な、私がやったやつだったらゲームの展示をしたらゲームの中に出てくるキャラクターの本が神話とかにあってそっちの本が借りられたり、なんてこともありましたので、ぜひそういう多様な展示をすることで活用を図っていただきたいなと思いますので、ぜひよろしくをお願いします。

ほかにございますでしょうか。どうぞ。

○副会長 すみません、ちょっと細かいというか、すぐに修正が可能なのかどうか分からないんですけども、廃止された人材育成・研修計画のところなんですけど、この前書いたというか、先ほど話が終わった報告書のほうで、協議会の意見としては、司書の専門性が必要なのはもちろんなんだけれども、それ以外のスキルというのが、今、図書館の職員に求められていて、これからそれが強くなっていくんじゃないかというのを意見として書かせていただいて、なので研修計画が重要だという展開にしているんですけども、ここを拝見すると、図書館の職員というか司書の専門性ってレファレンスだけなのかというふうには、ちょっと逆に見えてしまって、何となく狭めるというか、元に戻っちゃうように見えるんですけど、そこは何かありませんでしょうか。

○企画運営係長 特に人材育成のところはなくしてよいのか悩んだところなんです。また広報・PR活動も1回なくして、また戻したところでもあるので、皆さんにご意見を頂きたいと思っていました。人材育成については、各館でというよりも全体で行うことであったり、指定管理者の場合では、その事業者で行うというところもあって、取組と評価が難しいのではないかと考えていましたが、重要なポイントではありますので、やはり残したほうがというご意見があれば、評価項目の数が増えるかもしれませんが、必要なものは残していきたいと思います。

○会長 特に4の「専門家・ボランティアの育成・活用」の中の評価項目は、今、②と⑦で構成されているんですけど、ここに全く図書館員とか、あと例えば子どもの児童サービスの専門家の育成とか、あと、私なんかの関心分野で、例えば読書バリアフリーとかに関する専門家の育成というのは、ちょっと抜け落ちているような感はありますので、「専門家・ボランティアの育成・活用」の中で、改めてちょっと付け加えてもいいのかなとは私も感じます。

あと、今ご意見のほうであったというのは、レファレンスサービスの充実の部分はレファレンスの集計の仕方については見直すべきだというご意見が評価委員会では多かったもので、それについても、まあ、これは取組ではないんですけど、この評価をする上で、環境を

ちゃんと整えておいて、こういうことがあったらレファレンス1件ですとか事故調査1件ですよみたいなところは、ぜひ整理すべきだというご意見は多かったと思いますので、ぜひそこも検討していただきたいところですね。

そうですね、地域資料の扱いというのもやはり研修というのは本来必要だと。だから、それぞれの事業ごとに研修とか人材育成が必要だということもありますが、そういうのをひっくるめて、一つ総合的なものをつくったほうがいいんじゃないかというご意見だと思います。

ほかに委員の皆様からございますでしょうか。

○企画運営係長 今日のご意見をもとに、館長会、係長会等で、また職員の意見も踏まえて決めていきたいと思います。

○会長 はい。それでは、またご意見がありましたら図書館のほうに寄せていただくということで、次の令和6年度利用者満足度調査について、事務局よりご説明をお願いいたします。

○企画運営係主査 はい。それでは、資料3をご覧ください。併せて、番号を振っていないんですけども、前回まで使っていました調査票をお配りしていますので、参考に見ただければと思います。

こちら、今、検討いただきました新しいサービス基本方針に基づく評価項目に合わせて、図書館のほうでこんなことを聞いてみたいなのというのを書き出した案となっております。事前にお送りしていますので、気になった点があれば、いろいろ今日お伺いしたいと思います。

前回の利用者満足度調査と変わったところを、まず、少し説明をしていきたいと思えます。

その前に、大前提のことをちょっとお伝えしていなかったなというのがありまして、この満足度調査、令和3年度の、今、最新の図書館運営状況報告書の資料編を見ていただくと書いてあるんですが、このアンケートの対象は中学生以上の方というふうに考えておりましたので、年代のところは10代から始まっています。小学生の方にお答えいただくのは難しいかなというところで、中学生以上を対象としています。今お配りしている資料の中には、そこに触れていませんでした。そこを前提として、これから対象は中学生以上としようと思って、作っております。

では、資料3の上から説明します。

まず、あなた自身について教えてくださいということで、年代、職業、来館頻度については変更はないんですけども、新たに「主な来館目的」というのを複数回答で書きたいなど思っております。今まではこちらで利用目的を想像して、こういうふうにご利用している人が多いのではないかと、満足度の内容で推察していましたが、ちゃんと聞いたらどうだろうというところで、①から④、貸出返却、本・雑誌の閲覧、調べもの、行事への参加、次に、中央と永福図書館には利用者さんが自由に使える無線LANがありますので、その使用がしたくて来ているという質問をつけてもいいのかなと思っています。あとは閲覧席をメインで使っている。場所が必要だから来ているということが聞けるように⑥。あと、何かあるかなというところで、「その他」を追加しようと思っております。

続きまして、問1から入っていきます。こちら、書き漏らしているんですが、質問の最後に「(1つに○)」というふうに網羅して書けていないところがあります。基本的に「複数回答可」と書いてあるもの以外は「(1つに○)」という回答にしたいと思って、作っております。それをご承知おきいただければと思います。

まず、職員の対応についてということで、5段階にしました。今までは4段階、「満足」、「やや満足」、「普通」、「やや不満」、「不満」だったんですが、「どちらとも言えない」という項目を作ってみました。自由記述の中で、職員の対応についてだけではなく、ほかの項目に対して、使っていないので不満も満足もないのでどうしたらいいんだというようなご意見を頂いていましたので、「どちらとも言えない」という項目が必要な状況もあるかと思い、5段階評価というのを基本に考えております。

図書館の本について、問2なんですけれども、こちら今までは本の品ぞろえ、蔵書の品ぞろえということ、1択だったんですけども、今回、児童向けの本、地域資料、参考図書はどうでしょうかと、設問を増やしてみました。これは、それぞれに対してどれぐらい使っているのかということも推察できるかなと思い増やしました。表現の仕方は、まだ修正の余地がありますので、こんな言い方がいいんじゃないかというのは、後々ご意見いただければと思いますが、品ぞろえという言い方でお伺いしようと思っております。

3、利用しやすさについては、書架、見出しサイン、本が探しやすいですかというのは5段階なんですけども、館内の検索機、ホームページでの検索、これが使いやすいですか、どうですかというところは6段階にし、「利用したことが無い」というのをつけています。利用したことがない方については、どうしてお使いいただけないんですかということで、知らなかった、分からない、必要がないという三つの選択肢を選んでいただくように矢印

をつけました。

あとは、館内は使いやすいですかというのも5段階で聞きます。今回付け足したのが、この閲覧スペース（机、いす）は使いやすいですか、どうですかというところを質問に入れました。中央図書館は、自習席みたいな部分、席も多くあるんですけども、それでも使いやすいですか、どうですかというのは聞きたいなと思いますし、地域図書館でも、狭い中でいろいろ工夫して、なるべくスペースを取ろう、取ろうとして頑張っていますので、その結果、どういうふうを受け止めてもらっているのかが分かるかなと思います。

次、4番、図書館サービス全般についてです。レファレンスについて、調べもの相談についてどうでしょうということ。これは今までもあった質問になっております。これも「利用したことが無い」という項目をつけて、どうしてお使いになったことがないんですかというのを聞こうと思っています。

次、4-2、4-3なんですが、行事の満足度をどうですかというのを、大人、一般向けのもの、児童向けに分けてみました。これもどちらに対してどういう意見があるのかというのを明確に分かると、私たちも参考にしやすいかなと思って分けてみました。これも「利用したことが無い」、参加したことがないという言い方のほうがいいのかもしいないんですが、どうしてお使いになったことがないんですかということを知りたいと思っています。

次、4-4と4-5ですが、前は、広報、情報発信はどうでしたかという質問だったんですが、今回は紙媒体で出している、図書館で発行しているおたよりについてと、図書館ホームページの情報発信、これを別々に聞いてみてはどうかかなと思って別にしました。こちらを使ったことがない、見たことがないという人に、どうしてですかというのを聞こうと思っています。

4-5、図書館ホームページでの情報発信については、「利用の仕方がわからない」ということで、ホームページを見たことがない方もいるかなというところで、ちょっとこだけ4択になっています。

問5として、今回、これは新しく取り入れてみようと思うのですが、利用している図書館の全体的な満足度を教えてくださいということで、総合的なご意見を聞いてみるのも面白いかなと思い、付け加えようかと考えております。

問5-2ですが、新たに考えているんですが、今までの問4までは利用者満足度調査なんですけど、この5については、利用者アンケートというようなことで活用できる欄にしたいなと思っています。それは、例えば、今回は、案として、図書館サービス、どんなことがあ

れば利用したいですかということで、大活字本がいいとか、宅配サービスが欲しいとか、サイレントルームが欲しいとか、いろいろ書いているんですが、これはあくまで案なので、これから整理をしたいと思うんですが、こんな感じで、協議会の中で利用者さんに、「今年、ここら辺を聞いてみたらどう？」という意見があれば、毎年何かしらトピックを設定できる、質問を固定しない欄というのをつくってみたらどうかと思います。ほかの項目は、これから10年間、固定した質問として、アンケートを答えていただいて、それが10年たってどうなるか見ていきますが、5-2については、そのときそのときの質問が聞ければいいのかなというふうに思って、付け足しております。

問5として、自由記入欄、そのほか、何かご意見があったらということ。これ、ちょっとスペース的にこんなちっちゃいんですけども、この大きさは、いろいろ今後、質問の数によって、広さは大分調整が利くかなと思っています。ここに1、2、3、4として、蔵書について、施設についてというふうに項目を書いているんですが、これは、私たちが集計するに当たって、この利用者さんは、何についてこういうふうにおっしゃっているのかなというのが仕分けしにくい部分があり、例えば、使いにくい、嫌だみたいなことが書いてあるのは、何について嫌だなのかなというのが、施設の階段が多くて嫌だというようなことなのかなというのが、あとは、蔵書が古くて嫌だと言っているのかなということが分かるように、ちょっとガイド的なものを立ててみました。これも私たちが集計するに当たっての参考にした情報ということなので、回答のテーマを固定するような、操作するような感じがあるからよくないよというご意見があれば、それは参考にしたと思いますが、集計するに当たって、利用者さんのおっしゃっていることをちゃんと理解したいなと思っております。テーマを掲げますが、これは全部について書かなくてもいいと、そんなふうに考えております。

このアンケートの実施の方法としては、まずは例年どおり、窓口にお越しくくださった方に、図書館に来館してくださった方に紙でお配りする。あとは、この調査票自体にQRコードをつけて、そこからインターネットから回答をしていただくというのは引き続きやりたいと思うんですけども、それ以外にも、もっと広く回答いただけるように、図書館のホームページであるとかツイッター、区の公式のX等、SNS媒体を活用して、ふだん頻繁には図書館には来ない利用者からも回答が頂ける工夫をしたいと思っております。

このアンケートは、今までは、完全に、図書館をいらした方を対象とした利用者満足度調査でしたが、これからは、調査期間に来館されない方にも回答していただけるような工

夫であるとか、図書館ではなくて図書サービスコーナーをメインに使っていらっしゃる方にも回答していただくとか、図書館にあまり来ない方の意見も聞けるようにしたいと考えています。それを踏まえた上で、本日もご意見いただければと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

利用者満足度調査について、説明は以上となります。

○会長 はい。ありがとうございます。

こちらについて、皆様のほうからご意見ございますでしょうか。はい、どうぞ。

○委員 ありがとうございます。来館目的にその他を追加される予定と伺いましたけれども、この来館目的を見ると、みんなが何かしらの明確な目的を持って来ているんだという期待だと思うんですけど、もともと、誰もが気軽に立ち寄れて人々が交流したりということ、必ずしもこの目的ではなくて、ちょっと今日は寒いから図書館でも行こうかなとか、何か、何かがあるわけではないんだけど、行ってみたら、何か音楽CDのいいのが借りられちゃったとか、そういうこともあると思うので、何というんでしょうね、一人、孤独に無為に過ごすみたいなの、そういう余地があってもいいかなと思って。それがその他項目からあぶり出されればいいと思うんですけども、これを見てしまうと、あ、何か、私、目的がないと来ちゃいけないのか、じゃあ本を閲覧、というふうになってしまうんじゃないかなという危惧があります。

それから、図書館の本についての項目が随分変わったと思うんですけども、単純な話が、雑誌、新聞の閲覧は、これは図書の蔵書に入るんでしょうか。

○企画運営係主査 まず、今の蔵書の件に先にお答えしてしまいますと、ここに蔵書と、今、書いてしまったんですけども、雑誌、新聞も含まれるようなことが分かるように書くかと思っています。ただ一方で、雑誌、新聞、これ以上充実させてほしいと言われても、図書館として購読する新聞の数も限りがあるとか、雑誌の休廃刊なども多いので、そのジャンルの雑誌がもう、これ1誌しかないというようなことに対して、もっと充実させてほしいというご意見をたくさん頂いてしまうのは難しいので、こんなふうに書いたんですけども、やはり図書館として、新聞、雑誌というのは大事なものなので、そこは分かるように直したいと思います。ありがとうございます。

○委員 そうですね。だから、「やや満足」か「満足」が返ってくればいいんですよね、結果として。

○企画運営係主査 それでも、自由記述欄に、「あのジャンルを」と書いてはくださると

思ったので、消極的になってしまいました。

○委員 ちょっと印象として、中央図書館はかなり外国の新聞なども入っているのですが、そこは何か、もうあえて、これで書くことによって、あ、そんなに雑誌新聞があるなら見てみようかなみたいな呼び水になるかもしれないし、本として一くくりにしてしまうのは、ちょっともったいないかなと思いました。

以上です。

○企画運営係主査 ありがとうございます。雑誌・新聞の充実は、したくてもできない状況なので、ちょっとひるんでしまいましたが、直したいと思います。

あともう一つ、来館目的のほうなんですけれども、確かに、真夏だったら涼みに来る人もいるのでは、という意見も出て、「特に目的はない」という項目があるのは、必要かなと思いました。ちょっとそこは考えます。ありがとうございます。

○委員 ありがとうございます。

○会長 昔、ほかで見たのは、「何となく」とか。

○委員 ああ

○企画運営係主査 いいんですかね。

○会長 いや、それはありましたよ。あくまでも答える人が選びやすいかどうかポイントなんで、こっちの行政文書としていいか悪いかは関係ないかなとは思いますが、それは、今の本当に1例なんで、例えば、無目的にも、取りあえず立ち寄ってみたとか、立ち寄り目的とかいろいろあると思いますが、ぜひ工夫してください。

ほかにございますでしょうか。幾つか。じゃあ、先にどうぞ。

○委員 今の雑誌の続きの話で、ちょっと脱線するかもなんですけど。今、息子が中3で、図書館で勉強を、ふだんは塾に行っているんですけど、たまたま久しぶりに図書館に来たとき、休憩で、何か雑誌、プロレスが好きなので、「週刊プロレス」を読んでいた、「雑誌っていいね」と言っていましたんで……

○企画運営係主査 おおっ。

○委員 ぜひ、そういった発見の場にもしてほしいなと思いました。

○企画運営係主査 そうですね。

○委員 で、戻りまして。幾つかあって、利用者以外の方にもというような、何か、ということだったんですけど、やっぱりホームページとかツイッターも、やっぱり利用する人が見るものだなと思っているので、ちょっと難しいかもしれないんですけど、例えば、区

役所のサービスセンターとか、本当に、何だろう、図書館の何かというものではないところに置いたり、あと、ちょっと、私は子どもがいるからなんですけど、やっぱり学校に配って保護者に答えてもらったりとかそういう、本当に図書館という文字のないところに、図書館のホームページ、図書館のツイッターではなくて、そういうところも、もっと言えば、本当は美容院とかにも置いてほしいんですけど。何かそういう、本当に、行かない人に聞いてほしいということであれば、ちょっとこれは根底を覆しちゃうかもしれないけど、利用者満足度じゃなくて、図書館利用満足度、何か名前を変えたほうが、このタイトルを見ちゃうと、利用していないから答えないとか、あるのかなと思いました。

○企画運営係主査 そうですね。

○委員 あと、最後の問5-2という、この付け加えたというのは、すごく私も、自分だったらいろいろ書きたいなと思ったところだったんですけど、これはちょっと、問5-1、問5-2と続くんじゃないかと、切り離して、満足度調査でも何でもないので、何だろう、利用者アンケートとして別の項目で立てたほうが、まあ、こういうアンケート、ちょっと正直、私も最後のほうは集中力が途切れちゃったりするので、ちょっとこういう何か特別に、最後にちょっと、何だろう、少しデザインも変えたりしてあったほうが、書きやすいのかなと思いました。

以上です。

○企画運営係主査 ありがとうございます。いろいろ新しいご意見を頂けて、うれしいです。

まず、利用者満足度調査と、一方で、使っていない人の意見を私たちが知りたいところはある、どうして図書館を使わないのか、というアンケートは、内容は似たようなものであったとしても、タイトルを別にしてやらなきゃいけないというのは、もしかすると…

○委員 そうですね。

○企画運営係主査 今後、本当に考えていかなければと思いました。先ほど、ホームページやX（旧Twitter）でもアンケートをしたい、調査をしたいと言ったんですけど、そちらをこの調査票の内容と一緒にいいのかなということも今後、皆様に、協議会の場ではなくメールでご意見をお伺いすることもあるかもしれません。相談させていただきたいなど、思っております。ありがとうございます。

○会長 はい。

次に委員、どうぞ。

○委員 はい。よろしくお願ひいたします。質問項目なんで、まだ、これからどんどん言葉やなんかが変わっていくのかなと思うんですけども、問2の図書館の本について、品ぞろえについてなんです。

私がこれ、アンケートを受け取って、例えばその日に、児童書は見えていないやとか杉並区の資料は見えていないよとかとあると思うんですね。そのときに、「どちらとも言えない」というのは、私はつけられないなど。見えていないから。だから、この選ぶ項目の中に、例えば、「今日は利用していない」とか、そういう項目があれば、今日は見えていないから分からないわとそこにつけるんですけど、何かこう、全て、図書館に来たから全部について見ているわけではないので、もうちょっと何か、それこそ、ぼーっとして過ごして帰るときに、蔵書は今日は見えていないでも構わないのかなと思うので、その辺、もうちょっと楽に来てもいいんだよというのが伝わるとういかなと思いました。

○企画運営係主査 はい。ありがとうございます。

そうすると、「今日は利用していない」とか「利用したことがない」とか、そんなようなですね。考えてみます。答えやすいものにしていきたいと思います。ありがとうございます。

いろいろご意見いただいたんですけども、この利用者満足度調査は例年5月に実施しております。前にもちょっとお話ししたかもしれないんですが、次の図書館協議会は、調査の後になりますので、調査を始める前に、この内容で実施しますというのもメールでご報告させていただいて、調査に入るというスケジュールになると思いますので、ご了解いただければと思います。お願ひいたします。

○会長 じゃあ、委員、どうぞ。

○委員 はい。前回の利用者満足度調査の質問があったときに、「やや不満」、「不満」とあるんですけども、一体何に不満を持っているのかなというのがいまいち分からなくて、はい。皆さんが何に不満を持っているの、どうしたら、じゃあよくなるのかなというのが分かったほうが、今後にとっていいのかなというのがちょっと思いました。

あと、それを質問のときに、ほかの区のこといろいろ調べてみたんですけども、どのようにアンケートを取っているのかなと思ひまして。そうしましたら、無差別に区民の方に、もう手紙でやってしまっ、そこにQRコードをつけたりして。でも、結構半分ぐらい戻ってくるというふうに統計も出ていたので、何通出して何通戻ってきたという統計も

ありましたので、そのぐらいしないと、多分誰も答えてくれないのかなという気もして、何か区から来たぞと思うと、みんな身構えて出したりするので、そのぐらいしないと、多分、なぜ登録してくれないのかとかなぜ来ないのかという、本当のことは分からないんじゃないかなという気がいたしました。その中でも、何で来ないんですかという、結構具体的な、遠いからとか、何か嫌だとかそういうのも項目に入っていたので、もしよかったら、見てみてください。

以上です。

○会長 ありがとうございます。どうぞ。

○委員 すみません。個人的に、中央図書館の前を歩いて買い物に行ったり、通勤に行ったりしているので、今回この委員をお引き受けしたことによって、より一層、図書館の周りの様子を見るようになりました。すると、ここはちょうど体育館が目前にあるので、大体、私は夜ちょっと暗くなってから帰るんですけども、いろんな年代の方々が利用しているときに、お迎えにいらっしゃるといふのをよく見かけるんです。特に、そうですね、小学生ぐらいかな、のお子さんたちのお迎えというのが一番多いことには多いんですけど、その方々が、まあ、よく、図書館の周りをうろうろしていたり、掲示板をこんなにご覧になっているのかと思ったんです。もうそんなチャンスはないので、例えば、そういう方々の中には、様子を見ていてイベントの写真をぱちっと撮って、あ、これ行こうね、みたいな感じなのかなとか。同じように、この満足度調査のQRコードがそこにあったら、もしかしたら、少しでも答えてくださるかもしれないと思いました。

そして、先ほどおっしゃっていた手紙が来た例なんですけど、うち、たまたま娘がそんなものに当たって……

○委員 ちょうど高校生か高校を出た直後に、もう、ありとあらゆる区の施設、公民館ですとか——図書館が入っていたかどうか分からないんですが、ちょうど年齢的にとても学校等に忙しかったので、ほぼ全部「利用したことがない」に丸をつけて返却してしまったんですが、その中に図書館があったのかな、どうかかと、ちょっと気になってはいます。

以上です。

○会長 はい。ありがとうございます。

多分、区の中で全体的な施設の計画をつくるときに、ニーズ調査をしたんじゃないかなと想像しておりますが、はい。様々なご意見、また。じゃあ、先にどうぞ。

○委員 先にいいですか。先ほどご説明の中で問5、その他というのを今回設けたという

ふうにご説明があつて、その5-1がご利用の図書館の全体の評価度を教えてくださいと。要するに全体の評価度がその他というのは、ちょっと私としては、位置をもう少し上げたほうがいいと思いますので、例えば、問5がご利用の図書館の全体満足度ということの1問だけにして、本当の意味のその他は問6で、6-1で、今、ここに四角で囲ってあるものとか、裏面にあります自由意見ということで、やっぱり、この全体的満足度というのは、一番最初に問1に持ってくるのは、やっぱりちょっと重いかと思いますのでね。やっぱり全体にいろんな蔵書からサービス、その他ずっと見て、最後に全体の満足度はいかがですかという聞き方なので、それがその他というのは、もう少し格を上げてあげたいと思います。

以上です。

○企画運営係主査 ありがとうございます。

○会長 次に委員、どうぞ

○委員 図書館の本について。問2なんですけれども、参考図書の商品ぞろえというのが、多分子どもは分かるんだと思うんですけど、一般の人たちが、参考図書といって何を思い浮かべるかが、ちょっと私には、どうなのかなと思います。子どもは多分、学校で何となく分かると思うんですけど。

それから、問2-3の杉並区や東京都等の地域資料の商品ぞろえ、これ、今回の新旧評価項目の中に入っていますけど、今まで入っていなかった新設ですよ。何か、今年度に関して、特別にそれを注目することってあるんでしょうか。

あと、もう一つはすごく簡単なことなんですけど、主な来館目的のところ、中央・永福のみを丸括弧にしていますけど、丸括弧って、何か説明のために使うんで、これ、三角括弧か何か違うものにしたほうが。何か、前のものに関してかなとか、ちょっと誤解するんで、これは考えてください。

以上です。

○企画運営係主査 はい。ありがとうございます。

まず、参考図書なんですけれども、辞典、辞書、調べ物の本のような言い回しにしたいなと思っております。参考書と勘違いされても困るので、調べ物の本というのが分かるように書きたいと思っております。ありがとうございます。

それと、地域資料の商品ぞろえなんですけれども、特に、これから私たちがそこに力を入れていこうというような考え方を変えたというわけではなく、今もいろいろとそろえてき

ているとは思いますが、こういうふうを書くことで、見てみようと思ったださる方も増えるのかなとか、そういうことも考えています。あと、中央図書館では地域資料の部屋が一つあるので、あそこにあるんだなと分かりやすいんですが、地域図書館だと、地域資料ってどこにあるのかなというようなことも見ていただけるかなとか、あとは、やっぱり常に充実させようと頑張っている部分ですので、注目してもらって、こんな本もあったんだねと評価していただきたいなということです。

それと、丸括弧、先ほどの来館目的の丸括弧なんですけど、これは中央図書館の調査票にだけ書こうとか、無線LANというのが全館に張り巡らされていない館のところには書かないようにしようとか、そういうようなことで、案として今書いておりますので、ここの体裁は変わりますので、ご安心いただければと思います。あとは、鍵括弧の使い方は参考にさせていただきます。ありがとうございました。

まだ議題がほかにもあるので、そろそろまとめていただければと思うんですけども。

○会長 じゃあ、委員、最後でお願いします。すみません。

○委員 すみません。ほかの方の意見が出てからと思って最後にしたんですけども。

今の、中央、永福のみの書き方なんですけど、前に丸括弧についていると、これ、2行目全部に係るのかなとか、そういう係り方が不明確なので、これはまずい。これは変えてください。

○企画運営係主査 はい。

○委員 来館目的なんですけれども、何か、児童書あるいは児童向けの行事、一般向けの行事とか、問2であったりとか問4であったりとかというところで、今回細分化しているので、来館目的のところ、そういう問2、問4とクロスさせると、よく分かるというような項目もあったほうがよいのではという気がしました。

あと、オンラインのアンケートのときに、全然関係ない人が書き込んでもらうと思ったので、図書館の利用カードの番号を書くようにしたほうが無難だと思う。

それから、地域図書項目を増やしましたということなんですけど、これ、中央図書館だとカウンターの奥のほうにあるということだと思ってしまうんですけども、分かるようにほかの図書館でもやっておかないと、変に低く出ないかと思って。ちょっと配架の仕方を工夫したほうがいいのかと思いました。

それから、問3-2にOPACとあるんですけど、これ、私もこういうキーワードが出てくることは認識はしているものの、何だろうという感覚なので、専門用語は使わないか、

説明をする。はい。何か、受け手のことを考えて書きましようということですね。

○企画運営係主査 すみません、それに関しては、今、ここで皆さんに、内部で見ると
思っ作ってしまいましたので、実際のほうには、正しく記載します。

○委員 はい。

それから、問5-2で、その他の自由記述の項目があったほうがいいのか、自分たちが考
えている以外のアイデアがあるかもしれないので、それを吸い上げたいということす
で。

それから、問5-3で、1、2、3、4と並んでいて、コロンでなっていますが、これ、何
か全部書くのかなと思われたりとかする気もするので、自分が言いたいのはこの中の蔵書
についてだけなんだという人もいるかもしれないので、ご意見の、自分のご意見は蔵書に
関することなんだよというときに、そこに丸をつけるという感じで、どれかに丸をつけて
くださいみたいな感じにしておいて、書いていただくようにしたほうが、まだ書きやす
いかなという気がします。

ちょっとさっき出てきたことで、参考図書って分かるかなというお話があったんです
けども、逆に、辞典、辞書というふうにおっしゃって、逆にちょっとよく分からなくな
ってしまっ。さっき委員が1から8までというふうなお話をもされていて、そっちなと
ちよっと思っ見ていたんですけど、そうじゃないんですね。

○企画運営係主査 はい。

○委員 なので、本当に分かるようにしてください。そこぐらいかな。

あと、先に送っていた意見の資料のほうでは書いたんで、さっき、先におっしゃっ
たんですけども、中学生以上を対象にとおっしゃっていましたが、何でしょうね、ち
ゃい子が僕も書きたいというふうに言ったときに、中学生以上だから書けないのよと
言っ断るのかということが、ただちよっ気になっ。例えば、20歳未満とかでいいん
じゃないかと思っますね。

時間がないので、以上で。

○会長 はい。それでは、またご意見等については、メール等で実施までにぜひ詰
めていただければと思っますので、あと幾つか、今回は来館者アンケート、来館者の
満足度調査なんですけど、それ以外に、今、図書館のほうでご検討いただいている、
例えば非来館者向けのニーズアンケートみたいなものすとか、もしくはランダムで
やるようなアンケートとか、また配付方法とかについてはまたご意見を投げ
ていただきまっして、図書館の

ほうでご検討いただくということで。今日はちょっとここまでにさせていただきたいと思
います。

それでは、議題の(2)は以上で終了いたしまして、次に議題の(3)です。杉並区子ども読
書活動推進計画について、こちらについて事務局のほうから説明のほうよろしく願いい
たします。

○企画運営係主査 はい。子ども読書活動推進計画の改定案についてご説明いたします。

前提としまして、この子ども読書活動推進計画は、18歳までの子どもを対象とした読書
活動を活発に進めるための施策を示す計画で、現計画は令和4年度から令和6年度までと
なっているんですが、杉並区の全体の総合計画、杉並区実行計画、教育委員会で作って
おります杉並区教育ビジョンが1年早く改定を行うことになったため、こちらの計画も併
せて1年前倒しで改定することになりました。

そんなこともありまして、まだ計画が始まったばかりですので、基本的な考え方、計画
の性質以外の部分については大きな見直し等はいりません。子ども読書の機会の提供、利
用しやすい施設づくりの推進、地域ぐるみの読書活動推進の体制の充実、人材の育成、保
護者等への理解促進の支援という部分は、変えずに進めていきたいと思っております。

資料4、まず第1章、計画について、趣旨ですとか考え方、あと取組の成果等書いており
ますので、こちらのほうは改めてお読みいただければと思います。こんなことを1年、令
和4年度やりましたということです。

資料4の8ページ、4、計画の事業項目と重点取組、こちらは、大きくは変えていません
というお話をしたんですけれども、令和6年からの計画は、こんな項目立てて、この辺を
重点的にやっというところを書いております。こちらもお覧になっておいていただ
ければと思います。

今回の改定で、大きく変わった部分が11ページで、計画の目標と期間というところ
です。この計画の目標は、子どもたちが読書をする環境を整えて、読書の習慣を育んでとい
うことを目標にしているんですけれども、それを達成するための指標です。もともと、杉並区
の教育委員会のほうで実施しておりました杉並区特定課題に対する調査、意識実態調査と
いう調査がありまして、そこで、1か月に1冊も本を読んでいないと回答した子どもの割合
を未読者ということで、それを減らそうということを指標に掲げて、今まで進めてきてい
たんですが、この調査を見直すことになりまして、この項目がなくなってしまいました。
それで、この未読者をどうやって指標として出そうか、ということで、国で行っておりま

す全国学力・学習状況調査、小学校6年生と中学校3年生に毎年行われる調査がありますので、この調査の杉並区の子どもたちの未読者の割合と、読書が好きと回答した割合をこの指標に取り入れるように今回変わりましたので、説明をさせていただきました。指標1の未読者の割合は令和5年度調査の3割減、指標2の読書が好きな小中学生の割合は令和5年度実績の2割増を目指したいと思っております。

続きまして第2章、13ページからですね。こちらについては事前にお送りしてご覧いただいていると思うんですけども、資料5に新旧対照表がついておりますので、併せてご覧ください。ここも基本的に、内容、方向性を変えているということはありませんで、言い方をもうちょっと分かりやすくしようとか、もうちょっと強調した言い方にしようというような趣旨で修正しているところが主です。ただ、資料5の2枚目の下のほうで、資料4でいうところの22ページ、ここに年代別ブックリストというのがあるんですけども、そこは新しいものを追加しました。今まで、乳幼児と3歳から5歳、小学校1年生、中高生という年齢層のブックリストをつくっていましたが、今度の計画では小学校2年生から4年生向けのブックリストと、5年生、6年生向けのブックリストを追加をしております。タイトルは決まっていないんですが、段階的に子どもたちが自分のペースで読める本を増やしていったほしいというようなブックリストをつくりたいと考えています。

あと、24ページ、保護者向け講座等の実施の中の、子どもセンターという、読書とは関係ない施設、子育て関連施設があるんですけども、そこが図書館の紹介をしてくれる、図書館でもその方たちに来ていただいて、子育て相談を図書館でできるようにしようという連携をしています。それによって、図書館へ行ったことがないけれども、そこで相談ができるなら行ってみようというようなことができるのかなというのと、あと図書館に来ているから、子どもセンターまで行くのはちょっと勇気が要るけれども、図書館だったら相談できるかなというような相互のやり取りがうまくいくようにと思ひまして、こういう取組をしています。今までもやっていたんですが、計画の中での記載が薄かったので、充実させていますということを書きました。

26ページ、中学校等へ出張講座の実施。これも、活動が先にあったんですが、計画にうまく記載されていなかったもので、今回、中学校、区立中学校の図書館、図書委員さんと図書館員が連携をして、いろいろな交流をしていることを書いております。

ちょっと戻っていただきまして、学校における読書活動の推進の中で、20ページ、こちらに、新たに杉並区にあります区立特別支援学校の中等部の学校図書館が令和7年度途中

から、開設準備が始まりますので、特別支援学校の学校図書館支援を追加いたしました。

最後28ページ、社会教育関係施設や子どもに関わる施設間での協力連携という部分が新しく追加されています。今までの表記が薄かった部分があったので、ちゃんとやっているんです、これからやっていきますということが明らかになるように修正をいたしました。図書館ですとか郷土博物館、そういった社会教育関連施設が連携をし合って、読書活動推進をしていこうということ、またそこで関わる関連の職員、ボランティアさんなどにも、絵本の読み聞かせの仕方とか、わらべうたのこととか、そういったような子どもと本をつなぐような活動ができる支援をしていきたいということを書きました

主に今回の改定で大きく追加したりした部分についてだけ、今、抜粋して説明させていただきます。あとは併せて資料4、資料5をご覧くださいと思います。

説明は以上となります。

○会長 はい。ありがとうございます。

こちらについて、ご意見等、委員、どうぞ。

○委員 質問なんですけれども、資料4の11ページ、子ども読書活動推進計画。未読者の割合の設問に関して、「学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、読書をしますか」。これ、月曜日から金曜日という意味が分からない。土日のが入らない感じで。

○企画運営係主査 国の調査で、私たちも、どうして休日の自由時間に読んでいる本を調べていないだろうとすごく思うんですが、この未読者という部分についての調査の項目で、私たち、毎年杉並の子どもが答えた部分分かるものとして、今回これを使おうということになりました。

○委員 そうすると、数字が正確ではないということも言えなくはない。

○企画運営係主査 条件付きということになってしまうということですね。

○会長 まあ、ちょっと、過去との比較がちょっとできなくなって、前回、前々回からの引き続きという比較は、ちょっと難しくなってしまうということですね。

ほかにご意見ございませんか。

○企画運営係主査 資料編のほうに経過を載せていきますので、本文ではないんですけども、そちらのほうで推移が分かるようには表現したいと思っております。

○会長 はい。

ほかにございますでしょうか。じゃあ、どうぞ。

○委員 すみません。何度もすみません。今回、記載が増えたところで、4ページでビブリオバトルというのがあったんですけども、これって、やったことがある方ってどれくらいいらっしゃる。皆さん、当然、図書館でそれを何かやっているということですか。

○企画運営係主査 はい。ビブリオバトルは、やっている館もあるんですけども、最近ではもう人を集めることができなくなって、ちょっと途絶えているというところがあります。過去に、職員と子ども読書活動推進懇談会のメンバーとでやったことがあります。図書館員で、実際にビブリオバトルを経験したことがある者は結構いると思います。

○委員 分かりました。何か学校対抗とか、いろいろできたら面白いのかなと、ちょっと思いました。

○企画運営係主査 そうですね。

○委員 それから、ちょっと自分のメモとこの資料のどこがどう対応しているのか分からないんですけども、情報活用能力の育成というのはどこかありましたか。その中に、メディアリテラシーについて伝えるということもあっていいのかなと、ちょっと思いました。

それから、中学生、高校生世代に向けた読書活動の推進というところがあったと思うんですけども、私、高校で図書委員会なんですけど、図書委員会と何か連携してみたらどうかというのもちょっと思いました。

というのと、今、ご説明があった国の指標でというところで、指標を、前回の杉並区のと比べて見ていたんですけども、杉並区の指標でいくと、未読者数の割合が国の指標よりも低いんですよ。ということは、土日に読んでいる方が多いのかなという数字になっていると思うんですよ。なので、その、今後の出てきた数値の読み方とかをよく考えていかなきゃいけないのかなと。平日をふだんということだとちょっとあれですけども、平日の読書と休日の読書をどういうふうに取り組んでいくのかということも考えていく必要がひょっとしたらあるのかもしれないですし、指標が変わるということだけではなくて、取組方のところもちょっと考えていくということが必要かなと思いました。

○企画運営係主査 ありがとうございます。

子ども読書に関しては、多分、皆さん、まだいろいろとお考えがあると思うんですけども、今日、皆さんからこれに関してはお話しいただくと本当にたくさん出てくると思うので、この協議会が終わった後に、メールなどででも中央図書館のほうにご意見を頂ければなと思っております。ちょっと期間が短くて申し訳ないんですが、2月の第1週目中ぐらいまでに、何かお感じになったことなどありましたら、中央図書館のほうまでご連絡

いただければと思います。よろしくお願いいたします。

スケジュールのお話をさせていただきます。子ども読書活動推進計画は、今、案をまとめていますが、3月の半ばから区民の方に意見を聴取する、いわゆるパブリックコメントというものを1か月間実施します。なので、そこでお返しいただいても結構なんですけれども、そういったパブリックコメント、皆さんからのご意見を頂くという作業をした後に計画案が固まって、教育委員会で承認をうけ、議会に報告した後に公表となりますので、大体6月、7月ぐらいに冊子になってお渡しできるかなというようなスケジュールで考えております。

○会長 パブリックコメントもいいんですが、たくさん寄せられる場合にはちょっと埋もれてしまいますし、せつかくこの図書館協議会という、私は協議体の重さというのを入れたいと思いますので、委員の皆様にはちょっとご負担になるかもしれませんが、2月上旬ぐらいまでに、メール等でご意見を寄せていただければと思います。

それでは、ちょっと時間も押していますので、本日の議題は以上になりますが、その他、事務局からの議題等ございますでしょうか。

○中央図書館長 では、すみません。私のほうから、簡単にだけご紹介というか、成果だけお伝えしたいと思います。今、最後にA4の1枚のペーパーがあると思うんです、それをご覧いただければと思います。

私どものほう、令和5年度について、子ども読書活動でいろいろな活動をやっているところでございますけれど、特にコンクール関係、この5年度については3点ほど開催させていただきました。記載のとおりでございますけれども、子ども読書月間の標語と、それから24回目の調べる学習のコンクール、それから20回目のすぎなみ本の帯アイデアというのをやっておる実績でございます。

特に特筆すべきことだけご紹介いたしますと、真ん中の第24回の図書館を使った調べる学習コンクールでございますけれども、応募総数1,992点ございます。これは昨年度よりもはるかに多い件数でございますけれども、この中で受賞作品、区長賞以下、30点ありますけれども、これを図書館振興財団の主催の全国大会のほうに送ったところですが、今回、初めてですけど、入賞として観光庁の長官賞、これは文科省の大臣賞の次の賞で、唯一、一つだけの賞なんですけど、それが入選されたということが一つあります。そこが一番大きなところで、あとはご覧いただければと思っているところでございます。

時間もないので、これだけ紹介をさせていただきます。ありがとうございます。

○会長 はい。ありがとうございます。

ほかにございますでしょうか。大丈夫でしょうか。

(なし)

○会長 最後、ちょっと開会に遅れてしまいましたが、生涯学習担当部長様、ご挨拶を一言お願いいたします。

○生涯学習担当部長 皆さん、本日は、大変、すみません、遅参しまして大変申し訳ありません。ちょっと、前の団体の会合がございましたので、そこでちょっと遅れてしまいました。大変、年が改まって、1月というときでございますけれども、お忙しい中、またお寒い中、お越しいただきまして、大変ありがとうございます。

今年——今日はサービス評価だとか、あとは、先ほど話がありましたように、子ども読書活動推進計画というものを、これは区全体の計画が1年前倒しで改定ということになりました。それは、一昨年、区長が交代しまして、新しい区長になりましたから、基本構想自体は変えないんですが、それに基づく総合計画、それにひもづく様々な計画が、本来、来年度に計画改定をするということになっていたものが、政策変更もありますので、1年前倒しで改定ということになって、今回お示ししておりますのもその一環でございます。子ども読書活動推進計画。

いろいろ、今、過渡期で、時代、特にデジタル化ということが、国も自治体も焦眉の課題になっていますから、いろんなところで、図書館もそうですけれども、そういうデジタル化の波だとか、あとは新しい施設をコミュニティという観点からどうくくって、前に前進させていくかだとか、様々な議論があります。図書館で言うと、新しい、杉並第八小学校の跡地に、コミュニティ施設と一体となった図書館が、これは今年じゃなくて、今年準備が本格化するんですが、来年の3月に一応開設の予定としてございますけれども、そうした準備もあります。

また、生涯学習という観点からすると、この荻窪の地でございますけれども、地域に根差した歴史や文化を次世代につないでいくという目的で、旧近衛文麿邸、荻外荘ですね。これが国史跡に登録されまして、指定されまして、これが今年の12月に開設されます。その際に、陽明文庫という近衛家の資料、今、NHKで藤原氏の「光る君へ」をやっておりますけど、藤原氏のそういう資料館というのが京都にございますので、そことタイアップして、そうした近衛家ゆかり、あるいは藤原氏に関係する展示をしていくと、荻外荘というところにそういうフィールドを設けてやっていくと。というのは、図書館との関連も、

ここから近いので、いろんな史跡もございますから、つくっていくという予定になってございます。

また、そういう関連することも、いろいろ、場合によってはご意見を頂くような機会もあるかもしれませんが、図書館を中心にそうした取組を進めておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

ちょっと話が長くなりましたが、以上です。

○会長 ありがとうございました。

それでは、これで、令和5年度第3回の図書館協議会は終了させていただきます。議事進行へのご協力をありがとうございました。

皆さん、長時間ありがとうございました。